

中国 明代の喫茶文化

水と文人の隠逸思想



おいしいお茶を淹れようとしたら皆さんは何に気をつかうでしょう。茶葉？器？それとも気のおけない友人？16世紀の中国では、ポイントは「水」でした。当代随一の文人・文徵明と仲間たちは、名高い湧水「恵山泉」をはるばる訪れ、その探訪の感慨を詩文や絵画に残しました。一杯の茶のために名水を求めるのは、当時一流の「教養」の形を体現するものでもありました。講座前編では、水と茶に傾倒しながら深い教養を示した文徵明の詩画と、その隠逸の思想についてお話します。後編は文人の隠逸思想を込めた水の論述をひもとき、実際に台湾茶芸も披露します。

講師：張茹涵（ちょう・じょかん）

日時：9月28日、10月12日
ともに土曜日、14:00 - 16:00

場所：国立市公民館3階 集会室

申込：9月12日（木）朝9時～
国立市公民館 042-572-5141

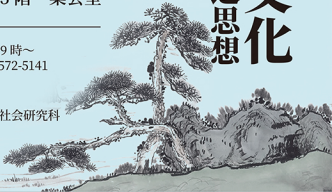
定員：25名（申込先着順）

主催：国立市公民館
一橋大学大学院言語社会研究科

これまでの
院生講座は
コチラ➡



<https://genha.hit-u.ac.jp/activities/kominkan.html>



【院生講座とは？】

国立市内の一橋大学では、研究者をめざす大学院生たちが日々研究に励んでいます。そこで公民館が架け橋となり、若手研究者と地域社会との交流講座を続けてきました。最新の研究動向に触れるもよし！修行中の院生にアドバイスするもよし！院生が講師となって専門分野をご紹介します。

